

企業組合うめっぼ

※2018年3月現在

代表者名	古池 洋子	資本金	1百万円
設立年	2013年3月4日	売上高	9百万円(2016年12月期)
事業内容	生産(梅)、消費者直売、加工・製造、作業受託	経営規模	樹園地0.58ha、加工施設50㎡(梅製品)、直売所25㎡(約15種類)
従事者数	13人(うち女性10人。女性内訳:役員4人、一般職6人)		
女性活躍支援	[女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係(屋内トイレ)、重労働等の業務改善		



経営概況

企業組合うめっぼは、福井県大飯郡おおい町にある農業法人である。

おおい町では、水田に梅の作付けを推進しており、福井梅ブランドとして高い評価を得ている。梅は1980年代までは「青いダイヤ」と呼ばれるほど収益性の高い農作物だったが、価格低迷や梅農家の高齢化等により、生産が減退し放任梅園が増加していた。そこで青梅に付加価値を加えて収益向上を図るため、女性を中心とした地域の梅農家の有志で2008年に「おおい梅加工グループ」を立ち上げた。加工品の商品展開が増え、販路と事業が拡大したことから、2013年には社会的信用と事業の継続性を高めるため、企業組合として法人化した。

同法人は、放任された梅園を管理し、年間約6tの青梅を生産して加工・販売している。栽培品種は福井県の代表的な紅映(べにさし)や新平太夫である。

収穫した梅は、梅干しを中心にピューレやジャム、ゼリー等に加工し、販売するとともに、常に新しい商品の開発にも取り組んでいる。また地域の特産品であるミディトマトやイチジクを使った加工品の開発と販売も行っており、消費拡大に寄与している。

現在の規模は、梅園0.58ha(120本)と加工場50㎡、直売所25㎡。人員構成は、代表の古池洋子氏をはじめ役員が7名(女性4名)。社員は6名(全員女性)となっている。

1. 経営者の理念・意識改革

代表の古池洋子氏は梅農家に嫁ぎ、家業を手伝う中で梅の生産組合の活動にも唯一の女性組合員として参加。当時、梅農家の女性は「縁の下の力持ち」的な存在であり、古池氏が「女性の活躍できる場を」と、組合女性部を立ち上げた。

女性部の活動から「梅を地域振興のシンボルに」との機運が高まり、男性組合員にも賛同者を募り、11名の梅農家による活動を開始し、同法



人の設立に至っている。

福井県の嶺南地域では初となる「企業組合」としての形式は、役員一人ひとりが農家であり、男女の別なく「それぞれが経営者」という経営方針に沿ったものである。

2. 女性が働きやすい環境の整備

同法人の基本姿勢は「力などに差あっても、考えることにおいては男女平等」である。その上で、(1)女性や男性など個々の違いを受け止め、意欲的に働ける職場づくり

(2)新たなビジネス環境のなかで、お客様のニーズに応えられる職場づくりの2点に努めている。

具体的には、体力が必要とされる梅園管理や外回りの配送等は、男性組合員が担当。食品加工や製品管理等は、女性組合員が担当している。また、作業台や用具等の設計に工夫し、女性が作業しやすい仕様となっている。

活動日は毎週月・水・金曜日の3日間のみと定め、活動日以外は家業である各自の梅園管理や家事などに計画的に取り組んでいる。

今後は、子育てや介護等と仕事が両立できる環境を整備し、若い世代の雇用をさらに進め、フルタイム稼働できる組織体制にすることが目標である。

3. 女性のスキルアップ

商品づくりや開発を女性が担当し、業務の中でスキルアップが図られている。

女性組合員は全員が主婦であり、商品を買う立場にもある。そのため、ロゴマークやパッケージ等、女性の感性を活かした商品開発を行っている。世代ごとの感性の違いもあるので、コンサルタントの意見も取り入れ、女性の中で会議を重ねている。

例えば、「飲む梅ゼリー」は、開発当初はカップ型だったが、手軽さが必要と、現在のパウチ型

に変更した。またジャムのラベルも3回作り変えるなど、試行錯誤を繰り返すこともある。そんな努力が実り、飲む梅ゼリーは月1,000袋を売り上げるヒット商品となった。

個々の分担業務による意識の高まりから、設立時(2013年期)に730万円だった売上高は、2016年期は940万円と、25%アップしている。

食品安全や食品衛生等に関する研修会や講習会に積極的に参加し、組合員間で情報を共有している。

4. 地域貢献への取り組み

同法人の梅商品は全て「木成り完熟梅」を使っている。これは、完熟して自然落下した香り高い梅で、ほとんど市場には出回らない。看板商品の梅干しは、この貴重な梅を、シソと塩だけで漬け、天日干しする昔ながらの製法で作っている。

みやげ品や法事などへの需要も徐々に増え、2017年度には地元「おおい町」のふるさと納税の返礼品に採用された。

収穫時期の6月には、地元の小学生や高齢者を招いて梅もぎ体験を実施するなど、地場産業のPRに力を入れるとともに、福井県の「ふくい食育ボランティア」として貢献している。

また、県内外からの視察を受け入れ、積極的な情報収集や意見交換を行い経営に役立てている。

審査委員の声

考えることにおいては男女平等。「それぞれが経営者」という企業組合うめっぼでは、一人ひとりが研究熱心で意欲的。各組合員が梅農家で、週3日間の活動なので、独立した立場で工夫し情報交換しつつ協働し、地域に貢献する生産的活動を行うことで、経営者として実践的な学習ができています。自分の時間をどのように活用すれば、家庭も仕事も地域も上手くいくのか。考えながら生活設計する新しい仕事のスタイルを見ることができる。